

岩倉市タウンミーティング（岩倉市立保育園父母の会連絡会）会議録

日時：平成27年10月17日（土）
午前9時30分～午前11時45分
場所：市民プラザ 多目的ホール

出席者 父母の会連絡会・・・23人

岩倉市・・・市長、副市長、教育こども未来部長、子育て支援課長、指導保育士、児童グループ長、協働推進課長、広報情報グループ2名

1 あいさつ

父母の会貴船様
片岡市長

2 懇談（要旨）

テーマ「岩倉の子どもたちが健やかに成長できる環境づくり」について

議題1 市立保育園の歴史の継承について

【父母の会】 父母の会は40年の歴史を持っている。市が運営する保育園は安心感があり、だからこそ私たちは公立保育園を選択している。認定こども園によって枠が増えたことは良いが、市立保育園の枠は減っている。この状況についてどのように考えているのか。

【 回答 】 平成24年度からこどもの庭保育園が初めての私立保育園としてスタートしたが、園長さんは保育に対する意識が非常に高い方。また、岩倉市は他の自治体と比較しても配置基準は手厚い。枠は市全体で考えている。何歳児が多いかどうかは年によって変動する。

関東地方には私立の保育園はたくさん存在している。福生市に視察に行った際に、16ぐらい私立保育園があり、公立は2園だけだった。

江南市でも私立保育園に関する反対が最初は多かった。でもサービスの質が高く今ではとても評判が良い。公立＝質が高いという固定観念は正しくない。

【父母の会】 外に目を向ける必要も確かにあると思う。いつも気になるのは、保育園等の拠点を増やすことは良いが、民間を増やして公立を減らすのはどういう意図なのかということ。

【 回答 】 民間でできることは民間でやってもらうことが基本。急に出てきた会社に任せているわけではなく、何十年も岩倉で幼稚園を運営してきた園にお願いしている。絶対に公務員がやらなくてはいけない分野というのは必ずあり、そこに関しては公務員がしっかりと行う。

【父母の会】 民間の良さもあるし、公立の良さもある。民間は若い先生が多い。公立保育園には経験豊富な先生がいる。民間を増やすのは良いが選択肢として残してほしい。公立保育園のニーズも多いと思う。

【 回答 】 急激に変化させているわけではない。選ぶのはあくまで親御さんであり市民が主体である。経験を伝えるのは公立保育園の子どもだけで良いわけではない。相談センターのようなものを充実させて、公立保育園に来ていない人にも伝わるようにしていけないといけない。どうしても核家族化により個で育てている人が多い。

民営化は経費節減のためだけでない。付加価値をどれだけつけるか、特色ある保育をするかということ。小牧市では公立保育園の半数を民営化する計画を作った。半数は公立保育園を残す。公としてやらなくてはならないことは、保育の基本方針策定やセーフティネットのところ。保護者のみなさんが不安に感じていることは未知の部分についての不安だと思う。いろいろなケースがあるのを見ていただきたい。

議題2 待機児童の解消及びきょうだいと同じ園へ入園することについて

【 回答 】 4月の時点で4人の0歳児待機児童がある。駅前の小規模保育所が完成すれば解消される見込み。

1歳以上は受け入れができていて、きょうだいで違う園に預けなければならない状況になっていることはじゅうぶんに承知している。3歳未満児の場合は保育士の配置基準もかなり違う。送迎の負担が大きいことも承知している。保護者のみなさんの意向を確認しながら調整に努めたい。

広報いわくら11月1日号に保育にかかっている費用についての記事が掲載される。民間が担う部分は補助金があるが、岩倉市が担う部分については4倍くらいの費用がかかる。これはかなりの負担となる。

【父母の会】 3歳以降環境が変わるリスクがある。それを考えると公立を選択する。

【 回答 】 認定こども園については5歳まで定員を持っている。まだ利用されている人は少ないものの利用者はある。

【父母の会】 公立の保育園に預けているのと全く同じ時間、3歳未満児以外の子どもも預かってもらえるのか。

【 回答 】 可能です。

【父母の会】 人数についても同じか。

【 回答 】 人数は園の都合があり、利用定員は現時点では多くない。制度のスタートにあたり、とりあえずは3歳未満児に傾注している。今後、園が枠を増やせるということになった際には施設に合った利用定員の見直しは可能である。

【父母の会】 認定こども園に3歳未満児で預けていて、3歳未満児でなくなった際に、そのまま同じ園で保育を希望しても、希望者が多ければ他の園に行くことになるのか。

【 回答 】 それはないと思う。需要があるなら定員は拡大していくことになる。一般的な話として、子どもの数は減っていくが、保育の需要は増えている。はじめの申し込みは認定こども園が目に見えない状況でスタートした。今は実際のこども園を見ることができるので、また違う状況になると思う。

【父母の会】 保育園のクラス編成の都合で認定こども園を紹介されたことがある。望んで認定こども園に行く人ばかりではないことを知っていてほしい。私たちは安心して子ど

もを預けて働きたいという思いが強い。しかし、手続きや審査に振り回されてしまいうし、自分自身で動いて調べたり、認定こども園を訪問したりしないといけない。もっと相談しやすい環境づくりをお願いしたい。認定こども園のことは父母にはまだまだ知られていない。

【 回答 】 認定こども園については保育全体のことも含めて市民周知を図っていききたい。保育園は利用調整のこともあり市で手続きができるが、認定こども園については制度上、園との直接契約になるため、保護者と園とで直接やりとりしてもらう必要がある。

制度そのものが始まったばかりということもある。国等から今後新たに出される情報についてもお知らせしていきたい。

【父母の会】 公立私立にこだわらず場所で選ぶ人も多いと思う。第1希望が公立、第2希望が認定こども園ということもある。

【 回答 】 第1希望の園に申請書を提出していただく。まずは第1希望のところへ入園できるように調整を図り、入れない場合の調整は市で行う。

【父母の会】 認定こども園のイベントは平日も多い。親の負担が増える。

【 回答 】 園のほうとしても考慮していると思う。

【父母の会】 民間サービスということで金銭的な負担が増えるのではないかな。

【 回答 】 保育料は変わりません。

【父母の会】 午後の途中で幼稚園の友達は帰宅してしまい、保育の子だけが残るという状況になる。子どもの気持ちにも配慮していく必要があると思う。

【 回答 】 そのあたりをどうやっていくかが園ごとの取り組みであると思う。認定こども園に関する説明がまだまだ足りていないと感じている。周知に努めたい。

【父母の会】 支援児保育を仙奈保育園で利用している。あゆみの家に行ったら、そこで幼稚園への入園は無理ですと言われた。しかし、現状では保育園にも入れずあゆみの家にも残れない。選択肢がない。支援児の親としては公立の保育の枠を増やしてほしい。

【 回答 】 発達支援については公共が力を入れてやらないといけないことであると認識している。需要も増えている。

認定こども園の良さというのはこれから認知されてくると思う。あゆみの家がここ数年いっぱいであるという状況も認識している。できるだけ保育園で保育士の加配もして受け入れるようにしていきたい。

【父母の会】 送迎の順番を選択させてほしい。また、入園の選考にあたり、同居親族がいるかどうかだけでなく、近所に親族がいるかどうかも考慮してほしい。転居してきた人は親族や頼れる人が近所には1人もいないので孤立を感じる。

【 回答 】 指数表の判定に基づき実施しています。あくまでも全体の中での点数づけなので確約できるものではありません。4～5歳児については通うことになる小学校区内の保育園に入れるようにしている。

【父母の会】 待機児童は4人とのことだったが、潜在的にはもっといると思う。1歳児で申し込んで定員がいっぱいだと言われたが、その際に「キャンセルでいいですか？」と言われた。わけもわからずはいと返事してしまった。言葉に配慮がない。

【 回答 】 話し方、伝え方が悪かったかもしれない。通常は第2希望の話などをお伝えしていると認識している。大前提として、保育が必要かどうかということがある。公費を投入する以上は誰でも保育園に預けられるというわけではないので、点数化して判断をさせていただく必要がある。

【父母の会】 自分たちの思いがまだ伝わっていないと感じる。残念な思い。
指数表の調整点の部分を増やすなどの対応はできないか。また、この指数表はいつ作られたものなのか。今のライフスタイルに合っていない部分もあるのではないかな。

【 回答 】 現在の指数表は昨年度、新制度への移行にあわせて見直したところです。

議題3 保育園駐車場の整備について

【父母の会】 財政的に厳しいことは承知している。土地の問題はあると思うが、可能性をあきらめずに少しずつでも進めてほしい。近隣では駐車場が用意されているところもある。父母でお金をだしあって駐車場を借りているところもある。

【 回答 】 駐車場にできるような土地の確保についてはあまり見込めない状況。

【父母の会】 中部保育園のすぐ近くの土地はどうか。

【 回答 】 開発が難しい土地だと認識している。

その他

【父母の会】 病児保育について。市内に1つしかない、水曜日は休み、予約ができない、時間が8時30分から18時、感染症は預けられない、などの問題があり、働く親としては利用しづらい。

【 回答 】 病児保育をお願いしている医院の意思もあり現状では難しい。予約は定員の問題がある。時間については決して短いとは考えていない。感染症の子どもを預かるにはそれに対応した施設の整備や人の確保が必要であり、現状では難しい。

【父母の会】 保護者は医院に直接意思を伝えることが難しい。そこを市に交渉してほしい。小牧市ではインフルエンザでも預けられるところがある。住民が安心して働ける環境を整備してほしい。

【 回答 】 医療については市の一存だけではない。病児保育をしていただける医院が1つでもあることは前向きに捉えている。他の手段がないかを考えることも必要。地域でサポートするような仕組みを考えたい。

【父母の会】 他の市でできていることは岩倉でも取り入れてほしい。

【 回答 】 医療については市長の権限の及ぶ範囲が狭い。

【父母の会】 他市の病院を利用した場合の補助はあるのか？

【 回答 】 補助金については慎重に考えないといけない。江南市で実施しているが、利用者は少ない。

【父母の会】 数値は氷山の一角だと思う。その下であきらめている人たちがたくさんいることはわかってほしい。

【父母の会】 病児シッターという取り組みをしているところもある。自宅で利用できるのも安心感がある。他地域から移り住んできた親は市役所からの情報が頼り。「ここではわからないので認定こども園に直接問い合わせてください」というのは残念。市では全ての情報を一括で把握し、保護者に寄り添う気持ちで接してほしい。

【 回答 】 認定こども園については私立ということもあり、本人や保護者にもご自身で一度確認していただいたほうが良いという意味も含めてご案内していることをご理解いただきたい。

また、利用者支援事業で人を配置しています。子育てに関する情報をきちんとお伝えしていけるように取り組んでいるところ。

病児シッターについても選択肢の1つとなってくる可能性はあると思う。

副市長あいさつ

11時45分終了